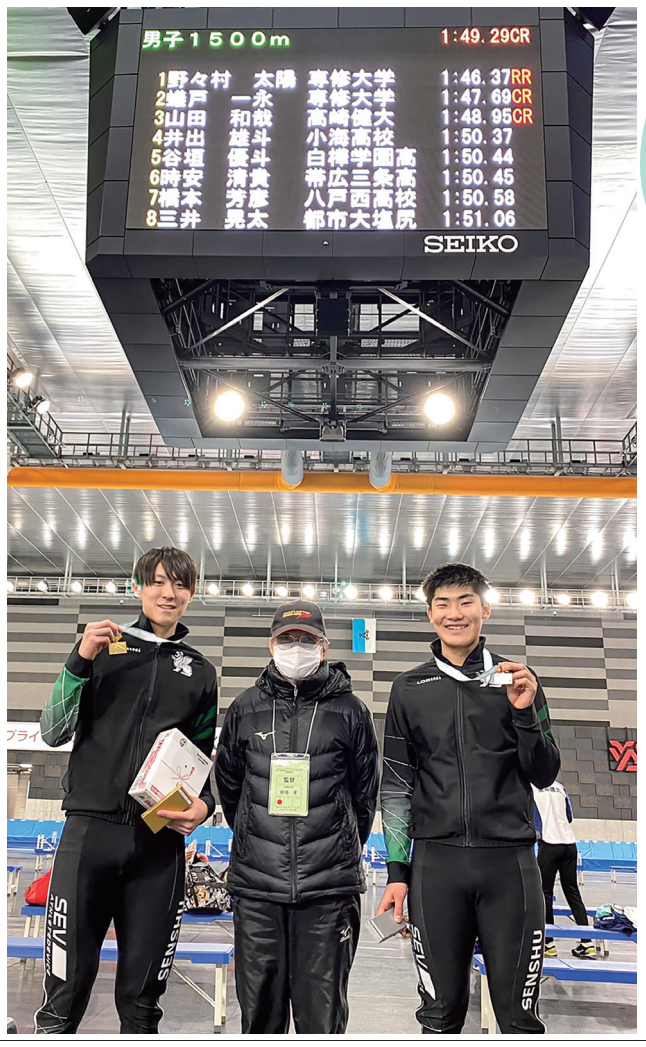
専大スポーツ
【専大スポーツ】https://www.senshu-u.ac.jp/sports/
No.415

専大スポーツ編集部公式WEB
Twitter @sensuponow
Instagram sensuponow



納得の結果に笑顔の蟻戸（右）と野々村（左）。中央は前嶋孝監督

蟻戸 5000メートル Jr日本新

1500メートル 2位 大会最優秀選手に

野々村は2冠

10000メートル 15000メートル

JOCジュニアオリンピックカップ兼全日本ジュニアスピードスケート選手権＝1月9～11日、青森県・YSアリーナ八戸

蟻戸一永（経営1・白樺学園高）が男子5000㍍で6分24秒10で日本ジュニア記録を更新し1位。大会最優秀選手に贈られるJOCジュニアオリンピックカップに選出された。

蟻戸は今大会を「絶対に勝たなければならない大会」と位置づけ、強い気持ちでレースに臨んだ。「疲れたときに低い姿勢を保つことを意識した」と言い、2位に10秒差をつける圧巻の滑りを披露。1500㍍でも2位となった。

レース後に「残された大会も少ないが、しっかり勝っていきたい」と決意を語った。

また、野々村太陽（経営1・白樺学園高）が男子1000㍍、1500㍍の2種目で1位となった。

2種目を制した野々村は1000㍍で1分10秒1、1500㍍で1分46秒37と、ともに大会新記録となる好タイムでゴールした。「得意種目の1500㍍は負けられないプレッシャーのなか、冷静に自分のスケーティングに集中し、良い感覚で滑りきることができた。これからはシニアのトップ選手を相手にどこまで通用するのか、挑戦者の気持ちでレースに臨む」と意気込みを語った。

今大会では、原純夢（経営1・佐久長聖高）も男子500㍍で4位と好成績を収めた。

原は「自己ベストの更新を目標としていたが、レース中に焦りが出てしまった。次の大会では落ち着いたレースを心掛けたい」と反省点を述べた。（男神愛・商2）

OB及川選手 男子単初V 強敵次々撃破

全日本卓球選手権＝1月11～17日、大阪市・丸善インテックアリーナ大阪

男子卓球部OBの及川瑞基選手（令2商、木下グループ）が男子シングルスで初優勝を果たした。

及川選手は大学4年次に、三部航平選手（令2商）とのペアで男子ダブルスを制し、今回はシングルスでも初の栄冠を勝ち取った。本学出身者の男子シングルス優勝は1996年大会の岩崎清信さん（平元商）以来。

今大会は無観客での開催となったが、「それほど影響はなく、普段通りの冷静なプレーができた。厳しい戦いが続くなかで戦術を整理し、上を見過ぎずに落ち着いてプレーした」と振り返るように、強敵相手にもひるむことなく順調に決勝へと駒を進めた。

決勝は、5ゲーム目にマッチポイントを握られる苦しい展開となったが、「ここまで来て守って負けたくなかったので、開き直って攻めることができた」と、3ゲームを連取。逆転勝利を収めた。

「（優勝の瞬間は）ほっとした。優勝できるとは思っていなかったので、うれしさよりも驚きの方が大きかった。日本で一番大きな大会で優勝することができ自信がついた。自分のプレーにも迷いがなくなってきた」と収穫を語った。

今後に向けて、「世界ランクを上げて世界選手権に出場し、2024年のパリ五輪に出ること」を目標とし、「さらにパワーをつけ、前陣や中陣で速い卓球をしていきたい」と飛躍を誓った。（倉鹿野雅賢・経済2）

粘り強いプレーを見せた及川さん＝写真提供・卓球レポート

キング開 Bリーグ横浜 特別指定選手に

バスケットボール部男子のキング開（文3・アレセイア湘南高）＝写真＝が1月11日、Bリーグの横浜ビー・コルセアーズに特別指定選手として登録された。

キレのあるドライブが武器で、攻撃的なスタイルが持ち味。身体能力に優れ、華のあるプレーを見せる一方で、ルーズボールに飛び込んだり、声を出してチームを盛り上げたりする場面も多く、献身的な姿勢も魅力の一つだ。

専大ではポイントガードに挑戦し成長途中にある彼が、プロの舞台でどんなプレーを見せるのか、期待がかかる。（岡本真凜・経営3）

西野はSR渋谷入団

バスケットボール部男子の西野曜（経済4・近大附属高）＝写真＝が12月18日、Bリーグのサンロッカーズ渋谷と選手契約を結んだ。

西野は、中からも外からも得点を奪えるオフェンスの多彩さが武器。2019年度全日本大学選手権では、優秀選手賞と得点王に輝き、準優勝に貢献した。3人制の日本代表候補にも選ばれ、その攻撃力は折り紙付き。

「SR渋谷にはNBAや日本代表を経験した選手、OBの盛實海翔さん（令2商）などタレントがそろい、組織力の高さに魅力を感じた。専大でプレーしたことで、周りに声をかけながらチームを引っ張ることができるようになった。プロの世界でも成長し続けたい」と語った。（岡本）

次のステージへ

今春、プロや実業団など、次のステージへ羽ばたく選手たちを紹介（2月10日現在判明分）。今後の活躍に注目してほしい。

◇ 主な進路先 ◇

部活	名前	学部・出身高校	進路先
サッカー	高島康四郎	法・東山高	ヴァンラーレ八戸
馬術	近藤　舞宝	経済・学法津田学園高	JRA　※馬術競技
バスケットボール	西野　曜	経済・近大附属高	サンロッカーズ渋谷
	河村　美侑	文・札幌山の手高	新潟アルビレックスBBラビッツ
	秋元　文香	文・千葉経済大附属高	ミツウロコ
バレーボール	東　拓巳	経営・開智高	トヨタモビリティ東京スパークル
	久保下航平	商・都城工高	アイシンティルマーレ
野球	佐藤　奨真	経営・関東第一高	千葉ロッテマリーンズ
	谷村　拓哉	経営・鹿児島実業高	高知ファイティングドッグス
	高原健大朗	経営・崇徳高	徳島インディゴソックス
	大庭　樹也	経済・明豊高	東芝
	龍野　瞳依	経済・佐賀商高	JR北海道
	金沢　龍介	経済・秋田高	JR東日本東北
	高橋　歩	法・金光学園高	福山ローズファイターズ
	大澤　翔	経営・木更津総合高	オールフロンティア
	寺元　啓介	経営・専大松戸高	茨城日産自動車
ラグビー	栗山　塁	経済・桐蔭学園高	栗田工業
陸上競技	森島　嘉大	文・美濃加茂高	自衛隊体育学校

3人が入賞

競泳・KOSUKE KITAJIMA CUP＝1月22～24日、江東区・東京辰巳国際水泳場

上原卓巳（経済3・日体大荏原高）が男子200㍍自由形で5位入賞、女子200㍍バタフライでは落合すみれ（経営3・日女体大附属二階堂高）が5位、山本実ノ里（文1・浜名高）が6位入賞を果たした。

上原は「得意種目である200㍍自由形では、予選・決勝ともに、日本学生選手権の時よりも速く泳ぐことができた」と話す。

落合も「レース後半もペースを落とさず泳げたことで、自己ベストに近いタイムを出すことができた」と手応えを感じている。（石井沙弥佳・文2）

冬季国体

1月27日から31日まで行われた国民体育大会冬季大会で、体育会所属の選手たちが活躍した。

アイスホッケー競技会（愛知県）では、千葉県代表の佐藤大慈（法2・埼玉栄高）が2ゴール、1アシストをマーク。千葉県の3位入賞に貢献した。

スケート競技会（岐阜県）では、成年男子1000㍍で山形県代表の森重航（経営2・山形中央高）、同5000㍍で北海道代表の堀川翼（経営2・白樺学園高）がともに4位となった。

訃報

長島修二氏（ながしま・しゅうじ＝昭46法）馬術部監督、体育会OB・OG会長

1月19日、71歳で死去。馬術部監督を2度（1998～2000年、11年～）務め、19年からは体育会OB・OG会長。08年北京オリンピックでは、馬術競技日本選手団の監督を務めた。